

# 「平成29年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	いわき市立小川中学校、小川小学校
推進協力校名	いわき市立小玉小学校

## 子どもたちの学力向上へ…授業改善への取り組み

ふくしま、そして小川中学校区の子どもたちの学力向上のため、教職員相互における学び合いの風土を醸成させる組織・体制づくりを行い、より質の高い授業の実践を目指して1年間取り組んだ。

### 1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

(1) 小川中学校区3校の共通理解・共通実践

5月に第1回地域推進協議会を開催し、以下の共通実践項目を設定した。

① 「教材との出会い」(導入)の工夫・改善

「この課題を解決したい」という気持ちを高め、目的意識、課題意識をもって主体的に取り組ませるためには、教材との出会い方が重要であることから設定し実践した。

② 「授業スタンダード」チェックシート 【「授業スタンダード」チェックシート】

シートの活用

公開授業、互見授業後に参観者から評価をもらい、事後研修で活用した。

③ 各校の実態に即したスタンダード項目の設定

児童生徒の実態に即したスタンダード項目を「授業スタンダード」から設定し、授業の改善を図った。

番号	項目	評 価										平均	
1	単元構想												#DIV/0!
2	本時のねらい												#DIV/0!
3	約束事・心構え												#DIV/0!
4	学習課題の設定	4	4	4	4	4	3	4	4	4			3.88889
5	計画・見直し	3	4	4	4	4	4	3	4	3			3.66667
6	机間指導	3	4	3	4	4	4	3	4	3			3.55556
7	ペア・グループ学習												#DIV/0!
8	話し合いICN	3	4	3	4	3	4	4	4	4			3.66667
9	振り返りの工夫	3	3	3	4	4	4	4	4	3			3.55556
10	新たな学び	4	4	4	3	3	4	4	4	4			3.77778
11	構造的な板書	3	3	3	4	3	4	4	4	3			3.44444
12	発問	3	3	3	4	4	4	3	4	3			3.44444
13	ノート指導												#DIV/0!

### 2 パイロット校の取組内容

(1) 小学校における「教科担任制」、中学校における「タテ持ち」の取り組みについて  
 小学校においては、国語科、算数科、理科において教科担任制、中学校においては、数学科、社会科、英語科においてタテ持ちを実施。次のような指導体制をとった。

	5年	6年
5年担任	理科	理科
6年担任	算数	算数
推進教師	国語	国語

小川小学校 (各学年1学級)

	数学科			社会科		英語科	
職員	A	B	C	D	E	F	G
1年	2組	1組		1組	2組	1組	2組
2年		2組	1組	2組	1組	2組	1組
3年		1・2組	3組	3組	1・2組	1組	2・3組

小川中学校

(2) 推進教師の役割と具体的な取り組みについて

「学びのスタンダード」推進事業の要として、次のような取り組みをした。

- ① 校内研修の推進及び教師同士の学び合いの環境づくり
- ② 児童生徒の実態把握アンケート及び教職員アンケートの実施集計
- ③ 範例授業の実施及び授業公開後の指導助言
- ④ 小・中との連絡・調整及び合同テスト（漢字・計算大会）の企画・運営
- ⑤ 「研修だより」を発行し、教職員の意識の改革に尽力

(3) 小川中学校における「授業スタンダード」に基づいた授業実践

① 「授業スタンダード」項目の取り入れ

「授業スタンダード」の内容を32ポイントの項目にしぼり、自分の授業を振り返るとともに、学習指導案の中に取り入れた。 ※「32ポイント」は別紙参照

② 教科部会の設置

時間割の中に教科部会の時間を位置づけ、教職員同士の学び合いを重視した。

③ 「授業スタンダード」に基づいた要請訪問及び小・中連携授業の公開

小・中連携「授業を見る会」や要請訪問を実施し、指導力の向上に努めた。

	学年	教科	実施形態
7.13	全学年	全教科	学校訪問
9.26	2・3年	数学・社会	要請訪問
11.13	対象生徒	特別活動	公開授業
11.27	2・3年	数学・社会	授業研究会 授業を見る会
1.26	1年	理科	要請訪問



(4) 小川小学校における「授業スタンダード」に基づいた授業実践

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

授業力向上の核となる「教材との出会い」「多様な言語活動」「計画・方向付け・見通し」「見取り・支援」「ペアやグループ・学級での話し合い」「まとめ・振り返り」の6項目を設定し、学習指導案に明記したり、授業の構築に取り入れたりした。

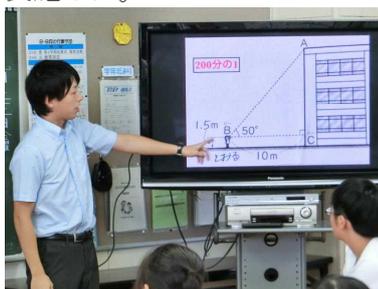
② 指導技術

指導技術の向上のために、「板書」「机間指導」「発問」「ノート指導」のそれぞれに工夫を加え、授業の実践に努めた。

③ 「授業スタンダード」に基づいた要請訪問及び小・中連携授業の公開

小・中連携「授業を見る会」や要請訪問を全学年で実施した。

	学年	教科	実施形態
6.9	3年	国語	要請訪問
6.27	2年	国語	要請訪問
9.8	1年	算数	要請訪問
9.22	5・6年	国語・算数	授業を見る会
10.13	4年	算数	要請訪問
11.22	5・6年	国語・算数	授業研究会



### (5) 推進地域における教育講演会の実施

地域内の全職員及び市内小・中学校の教職員対象に、教育講演会を実施した。福島県立ふたば未来学園高等学校副校長南郷市兵氏に「授業改善は生徒の進路実現につながるのか」をテーマに「2060年の日本、いわき市の状況」「学習指導要領改訂の方向性」「主体的・対話的・深い学びの視点からの授業の創造」等について講演をいただいた。

## 3 推進協力校の取組内容

### 【推進協力校における全体会】

(1) パイロット校に先駆け、「授業スタンダード」に基づく授業公開を実施した。

- ① 小玉小学校教職員による、要請訪問を伴う互見授業を行い、「授業スタンダード」の活用方法について共通理解を図った。



- ② 全体会において、小川中学校区内教職員全員を対象に、「学びのスタンダード」に係る説明を福島県教育庁義務教育課羽染聡指導主事よりいただいた。

(2) 小川中学校区内「家庭学習の手引き」作成の中心校となり、連絡・調整を行った。

## 4 成果と次年度へ向けて

(1) 成果

- ① 小・中学校の教職員の意識の共有化により、児童生徒の学びに向かう姿勢を育成していくことができた。
- ② 小学校による教科担任制や中学校によるタテ持ちにより、教材研究が充実するとともに、中学校においては教科担当間の協議が増加し、学習内容の定着が図られた。
- ③ 教職員間で話し合いを重ね、授業者が試行錯誤しながら授業を構築していく過程は、確実に教職員個々の指導力の向上につながった。
- ④ 生徒・教職員の授業に対する意識に変容が見られ、授業改善の意識改革が進むとともに、生徒の教科に対する意識もプラスに転じた。

(2) 次年度へ向けて

- ① 確かな学力の定着には、明確な「まとめ・振り返り」も欠かせない。その意味で、どのような方法で、どのような内容で「まとめ・振り返り」を行うかについて次年度は取り組んでいきたい。
- ② 授業と家庭学習の連携の在り方について課題が残った。家庭学習に係る小・中の連携や学校・家庭・地域がそれぞれの役割をお互いに理解し、連携・協力していくことが必要になってくる。「家庭学習スタンダード」の目的、活用方法を保護者にも周知徹底し、家庭学習の質を向上させていきたい。

# 現職通信



いわき市立小川中学校

## 1 はじめに

先生方には、「学びのスタンダード」推進事業の研究において日ごろから「授業改善」にむけた取り組みをしていただき、大変感謝しております。特に数学科の先生方におかれましては、3人の先生方が少ない空き時間を利用して、授業のポイントについて共通理解を図り、研究を進めていただきました。このことは他の先生方の良い模範となったように思います。今後も課題と成果についての総括を行い、次年度への研究に役立てていただけたらと思います。

## 2 研究の成果や課題

各先生方から成果や課題に関するご意見をいただきました。ご参考になさってください。

- 生徒が、学習活動の中心となるよう授業の展開を行った。また、話し合い活動やグループ活動を継続して実施している。(英語科)
- 生徒の意欲を高める導入、課題の設定を工夫するようになった。(英語)
- 実演を取り入れることで、生徒の興味・関心を高めることができた。(数学)
- 授業づくりの視点をもとにしたことで、授業づくりが容易になった。(理科)
- 【ポイント1】具体物を提示することで、学習課題についての興味・関心を高めることができた。(理科)
- 【ポイント1】具体物を提示することで、生徒の興味・関心を高める導入から、話し合い活動につなげることで、資料の見方や考え方が定着しつつある。
- 【ポイント13】友達との交流を通して、考えを共有・吟味させる活動により、自分の考えを練り上げ、まとめることができた。(社会)
- 【ポイント8】学習の計画や見通しを考えることで、意欲的な学びが行えた。(理科)
- 【ポイント27】子ども一人一人の学習の様子を適切に見取る机間指導を心がけ、実習時に戸惑っている生徒に個別指導を丁寧に行えた。(技術)
- 【ポイント1】具体物を提示することを心がけ、養護教諭と連携を図りながら本校の実態をグラフ等で示し、生徒の興味関心を高めることができた。その中で、普段発言しない生徒も積極的に発言するようになった。(保体)
- 【ポイント13】授業の展開でペア学習を取り入れることで、英語が苦手だった生徒も、少しずつ発表できるようになった。また、自分の考えを全然持てなかった生徒が、友達の考えを聞いて、意見や考えを持つようになった。
- 工夫した発問を意図的に加えることを実践したことで、既習事項を活用し、その後の生活につなげることができたと考えている。生徒の生活に対するアンテナが高くなった。(保体)
- 【ポイント6】「～について考えよう」などという曖昧な課題ではなく、「～するにはどうすればよいか」や「～するにはAかBか」という話し合いや考え方に方向性を持たせるような課題設定をし、興味・関心を高めた。(国語)
- 【ポイント15】生徒たちから出た意見や考えをつないでいき、話し合い活動に深まりを持たせることができた。(国語)
- 「教材との出会い」が上手くいった時には、生徒も意欲的に取り組んでいた。そのため、導入の工夫について取り組むようになった。(数学)
- 既習事項を振り返ることで、小学校との関連付けをしながら、授業を進めることができた。更に、今学習していることが今後の学習の基礎になることを意識付けできた。(家庭)
- 一緒に問題の解き方を考えることで、生徒が分かるようになった。ドリル学習を多く取り入れ、定着するまで徹底して問題を解くようにしている。(特支)

# 現職通信

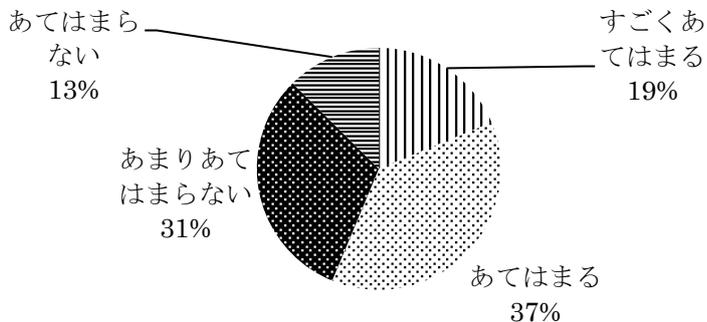


## 1 はじめに

いわき市立小川中学校

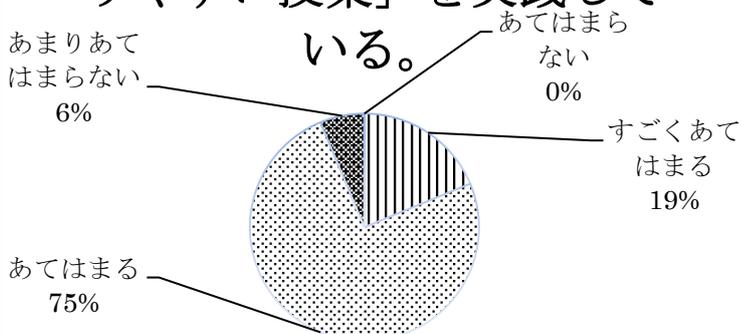
先生方には、日ごろから生徒主体の授業を心がけていただき、誠にありがとうございます。11月に実施した教職員のアンケートについて簡単な解説を加えましたので、ご参考になさってください。また、内容についてご意見がございましたら、是非、渡邊までお願いいたします。

### 適時、予習・復習の課題を出している。



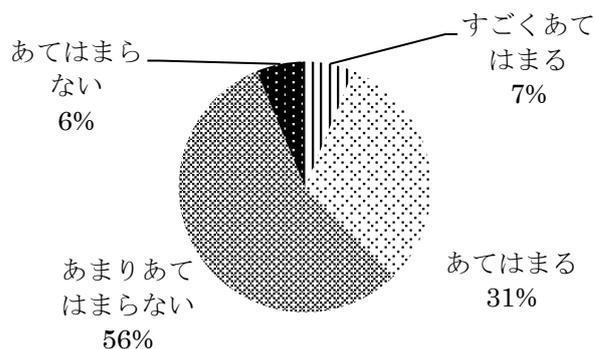
生徒への予習・復習課題を出している先生方は、56%でした。通塾率も高い上級生については、なかなか課題を出しにくい一面があるようです。また、教科担任から示された課題を、どのくらいの生徒がしっかりと実施しているのか、教科内でも考察すると量的・質的な視点からの課題も見えてくるように思います。

### 生徒の実態に即した「わかりやすい授業」を実践している。



通常の授業において、わかりやすい授業を実践している先生方は94%と高い数値を示しました。先生方が、今までよりも導入や展開、まとめ等で生徒の視点に立った授業改善が実施されていることがよくわかります。今後は、生徒の評価等も取り入れて質的改善を更に進めてください。

### 生徒の考えを基に話し合いをコーディネートしている。



課題の一つとしてあげられるのが、教員のコーディネート力です。話し合い活動をする際に、生徒から適切な考えを引き出し、教員が焦点化を図りながら、話し合いを深めさせていくという授業は、高度な内容です。そのために教員として明確な単元構造の分析を行い、伸ばしたい能力を明確にして取り組む必要があります。

## ふくしまの「授業スタンダード」選択項目

いわき市立小川中学校

	スタンダード項目
導 入	<p>【ポイント1】 具体物を提示する。</p> <p>【ポイント2】 既習事項を振り返る。</p> <p>【ポイント3】 実演を取り入れる。</p> <p>【ポイント4】 子どもとの対話を大切にする。</p> <p>【ポイント5】 引き出した問いなどを基に、学習課題を設定する。</p> <p>【ポイント6】 教材との出会わせ方を工夫し、興味・関心を高める。</p>
展 開	<p>【ポイント7】 ねらいを達成するために言語活動を設定する。</p> <p>【ポイント8】 何を、どのように追求・解決するかなどの計画や見通しを持つ。</p> <p>【ポイント9】 子ども一人一人が計画や見通しをもてたかを見取る。</p> <p>【ポイント10】 困っている子どもに寄り添い、「追求・解決したい」という思いをもてるように支援する。</p> <p>【ポイント11】 子どもが「どのように考えているか」を見取り、個に応じた支援をする。</p> <p>【ポイント12】 机間指導をしながら、その後の展開を構想する。</p> <p>【ポイント13】 友達との交流を通して、考えを共有・吟味させる。</p> <p>【ポイント14】 思考過程を可視化する。</p> <p>【ポイント15】 子ども達の考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫る。</p> <p>【ポイント16】 つまずきを取り上げる為、その子どもの思いに共感し、適切に支援する。</p> <p>【ポイント17】 目的を明確にし、ペアやグループ学習を行う。</p> <p>【ポイント18】 見方・考え方に基づく学級全体での話し合いを行う。</p>
終 末	<p>【ポイント19】 「何を学習したか」をまとめる。</p> <p>【ポイント20】 「どのように学習してきたか」を振り返る。</p> <p>【ポイント21】 新たな学びに目を向けさせる。</p>
指導技術	<p>【ポイント22】 見やすく、わかりやすい板書指導を行う。</p> <p>【ポイント23】 授業の流れが分かる板書指導を行う。</p> <p>【ポイント24】 学び直しができる板書指導を行う。</p> <p>【ポイント25】 思考力を育てる板書指導を行う。</p> <p>【ポイント26】 子どもと共に作る板書指導を行う。</p> <p>【ポイント27】 子ども一人一人の学習の様子を見取る机間指導を行う。</p> <p>【ポイント28】 子ども一人一人を適切に評価する机間指導を行う。</p> <p>【ポイント29】 ペアやグループでの話し合いの状況を見取る机間指導を行う。</p> <p>【ポイント30】 工夫した発問を意図的に加える。</p> <p>【ポイント31】 学習した内容を確実に記録させるノート指導を行う。</p> <p>【ポイント32】 自分の思いや考えなどを分かりやすく記録させるノート指導を行う。</p>